

CAPNA

キャプナ★ニューズレター

栃木県小山市で9月、幼い兄弟が同居男の虐待を受けたうえ川に投げ込まれ殺害された事件は、2家族同居のいびつな生活が生んだ悲劇でした。そして、危うさを察知しながら家庭訪問をしなかった児童相談所の対応が批判を浴びました。

虐待死事件でしばしば繰り返される「知っていたが救えなかった」のパターン。厚生労働省は、社会福祉審議会の児童部会の中に「児童虐待死検証委員会」を立ち上げることを決め、その委員の一人に、CAPNAの岩城正光理事長が就任することになりました。一つ一つの虐待死亡ケースを検証し、児童相談所などが判断ミスを繰り返さないように具体的な提言をまとめる役割です。

CAPNAへの社会の期待はますます大きくなっています。責任をかみしめ、がんばっていきます。

37

Vol.

皆様のご好意に感謝して

イオン(株)グループの行う社会貢献活動の一つ「幸せの黄色いレシートキャンペーン」にCAPNAも参加しています。毎月11日の「イオンデー」に発行されるジャスコの黄色いレシートを、各店に設置された専用ボックスに投函していただくと、皆様のご好意がそのレシートの1%分の商品となってCAPNAに寄付されます。

9月末現在、2004年3月～8月分の助成(寄付)金額の報告をいただいているのは、ジャスコ南陽店(10,400円)、扶桑店(8,600円)、瀬戸みずの店(8,700円)の3店舗です。掃除機、事務用品、自転車など、事務局での通常業務に使えるものをご購入させていただく予定です。

ありがとうございました。そして、どうぞ引き続き

ジャスコの黄色いレシートでCAPNAを応援してください。

CAPNAのボックスは、ジャスコ『名西店』『ワンダーシティ店』『守山店』『豊田店』『南陽店』『扶桑店』『瀬戸みずの店』『イオン熱田店』『マックスバリュ弥富店』に設置されています。尚、「買い物袋スタンプカード」のスタンプ(「レジ袋は不要です」と申し出ると押してもらえます)が20個たまると、「幸せの黄色いレシートキャンペーンの投函カード」と引き換える事ができるようになりました。このカードは、1枚100円相当として集計されます。

Book紹介

「心の目で見える子ども虐待」

広岡智子著 草土文化 本体価格1500円

「生きていく道を子どもに取られた」「子どもに何か頼まれると腹が立つ」など、子どもへの否定的感情を訴える母親たち。「子どもの虐待防止センター相談員」として多くの母親たちのそうした声に接して来た筆者は、そんな彼女らのつらい思いを『控えめな共感と支持』で受け止める大切さを、飾らない筆致と誰にでもわかりやすい言葉で説明していきます。

努力しても評価されない「育児」の中で、母親たちへ、そしてその支援者たちへの良きアドバイスとなる一冊です。どうぞお読みください。

<お知らせ>

次回のCAPNA市民講座は10月28日(木) 講師は岩城正光(CAPNA理事長)です。会場は、名古屋市女性会館視聴覚室。午後6時半から8時半まで。参加費は会員無料、一般500円です。

『児童虐待に対する刑事司法の現状とあるべき姿についての考察—2つのネグレクト死事件から見えてくるもの—』(キャプナ弁護士有志 著)をお読みください。

「子どもの虐待とネグレクト」第6巻2号(2004・8・15発行)より別刷りされたものを限定100冊、300円にて販売いたします。ご希望の方はCAPNA事務局まで注文用紙をFAXいただくか、TELにてご注文ください。

ご寄付

次の皆様からご寄付をいただきました。お礼申し上げます。

(8-9月分、順不同、敬称略)

【団体】名古屋名城ローターアクトクラブ、MisFits、Children 1st

【個人】堀内久美子

他匿名で2団体、4名

CAPNAニューズレター37号 (隔月刊21号)

2004年10月8日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA事務局広報チーム

事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882

チルドレン・ファースト来日

愛知万博へ向け、名古屋・豊田で交流

来年の愛知万博の地球市民村で、CAPNAと共同出展するチルドレン・ファースト(スコットランド)の主要メンバー4人が8月末に来日。万博展示に向けての打ち合わせをするともに、名古屋、豊田で講演会を実施。また、CAPNAメンバーと一緒に高山・白川への旅行にも出かけ、交流を深めました。来日したのは、最高責任者のマーガレット・マッケイさんと夫のゲリーさん、事業開発担当ワーカーのキャサリン・マクノルティーさん、グラスゴー支部のプロジェクトリーダーのジューン・ウェルシュさんです。4人と接したCAPNAメンバーのレポートをお届けします。

感心したロールプレイ

高橋 昌久(CAPNA 理事)

豊田でのセミナーは、平日で参加者が少人数だったこともあって、車座になって身近にお二人の話が聞け、同時通訳も素晴らしく、液晶プロジェクターから映し出される画像にもしばしば見入ってしまい、スライド担当でありながら、次の画像へのクリックが何度か遅れてしまった。

「心配事の大きな袋」をつかったロールプレイはわかりやすく、実際の臨床の場で応用できる方法だと感じた。たとえばある一人の子がたくさんの心配事を書いた紙を一枚一枚「大きな袋」の中に入れていく。とりあえずその中の一枚についてゆっくり話し合っている程度解決すればゴミ箱にポイ！「とにかく袋は少し軽くなったよね」というのは、ビジュアル的に子どもにもわかりやすく、次へのカウンセリングにつながっていくと思う(実際に、そのように彼女たちのロールプレイはつながっていった)。それとは別に、多くの子ども達が一枚一枚それぞれの心配事を無記名で「大きな袋」の中に入れていく。それを、読み上げながらみんなで解決していく。最後に袋が空っぽになるころに、子ども達にはどういった変化が起きているのだろう。いろんな想いを共感してくれているのではないだろうか。

みなさんも、家庭や職場で「心配事の大きな袋」を使ってみてはいかがだろう。私も、以前はポストイットにいろんな仕事の締め切りとかやらないといけないこと(心配事)を書いてはベタベタいろんなところに貼っていたのだが、最近「心配事の大きな段ボール箱」を用意

して、A4の紙に大きな字でデカデカとやらないといけないこと(心配事)を書いては放り込み、時間を作っては取り出して、一枚一枚片づけている。

今度は、カウンセリングの講習会で実際に試してみようと思う。(心配事)といえ、あんな大きな袋が市販されていないこと、「講習会までには揃えること」と書いた紙が今も「段ボール箱」の一番上でこちらを見ている。講習会も「段ボール箱」でいくしかないよと言っているようだ。

子どもを守るのはすべての人間の責任

瀧本星子(CAPNA・C6メンバー)

チルドレンファースト最後の講演である市民講座には沢山の人が集まりました。「性虐待を受けた子どもの治療的支援」をテーマに、この支援に関わっているジューンさんから、被害者だけで



市民講座で講演するマーガレットさん

なく家族全体を支援していること、デイビッド・ファンケルホーの論理についてのお話等を伺いました。ジューンさんのお話の前後にはチルドレンファーストの歴史や彼らの幅広い活動についても伺うことが出来ました。いろいろな視点で、様々な活動を行っていることに感心しました。

「子どもを守ることはすべての人間の責任です」と繰り返しおっしゃっていた言葉が強く印象に残りました。私たち1人1人が自分には何が出来るかを考えて行動できる社会を作っていけるといいですね。

白川郷と高山に遊ぶ

上野 恒男(CAPNA 会員)

8月28日、台風17号が九州に近づきつつあるなかで、高山のお天気を心配しながら集合場所のローズコートホテルへ急ぐ。何とか間に合ったと思えば、それから出発するまで約30分経過。何時になったら集まるのかな、はっきりと決まっていなかったのかな、あれこれ思いながら、NPOという組織の運営ってどうなっているのだろうと、初めから興味津々。旅の楽しさを予感。

マッケイさんご夫妻・ジューンさん、キャサリンさんのスコットランドからの賓客を3台の車に分乗していただいて、いざ、世界遺産である白川郷へ。白川郷、高山は何度も訪ねており、今回はスコットランド&CAPNAのメンバーの自由奔放な行動スタイルを、静かにじっくりと楽しんできました。

白川郷の駐車場は3台が空いているところを探しながら、バラバラに駐車。マッケイ氏は下車した瞬間、行方不明(要するに自主的行動力旺盛)。



和風の旅館で、乾杯!

お昼の食事に何を食べるのか心配している人は極めて少数派(小生はそばが食べたいなと、ただ気をもむだけ)、どうやら昼食はスケジュールから脱落の模様。展望台からの白川郷の家並みはさすがに世界遺産にふさわしく絶景。高山への国道沿いにある、同じ万博参加のオークビレッジへ立ち寄り。木工具の製造過程をビレッジの榎本さんから直接案内していただくというラッキーチャンスに恵まれる。メンバー全員が自らの幸運さに大満足。

高山の旅館は、期待に胸が躍る和風ロジ。男性チームは、到着後早速はだかの交流。スコットランドもオーストラリヤもジャパンも温泉に入れば普通の地球人でした。

敷地内には流れる清流の音を楽しみながら、囲炉裏を囲んでの超豪華な日本料理と酒。それぞれの母国語で乾杯コールの連続。まさに朝まで続くかと思うぐらいの交歓でした。翌日の朝、心配した台風の気配もなく、高山の屋台見学。緋毛氈に座ってかき氷を食べながら自然した議論派もあれば、おみやげ満載の散策派あり、この日も前日に続き自由人の面目躍如の皆さんでした。筆舌に尽くしがたいほどの交流と楽しさを味わうことが出来ました。大感謝。